

◆三宅和広議員 本日2番手、政和会の1番手になります、三宅和広でございます。

今回初当選させていただきました。今後市政発展のために力を尽くしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

児童・生徒の基礎学力の向上についてでございます。

厚生労働省によると、17歳以下の子供の貧困率は16.3%、6人に1人が貧困状態にあるとされています。貧困状態とは、国民の平均的な所得の半分以下、最新の調査では世帯所得が122万円以下の状態とされているようでございます。現在、6人に1人の子供がそうした貧困状態にあるという危機的な状況にあります。

そうした状況を踏まえ、国のほうでも、平成25年に子どもの貧困対策の推進に関する法律を制定し、また、昨年平成26年には子供の貧困対策に関する大綱を閣議決定しております。国としても、子供の貧困対策を総合的に推進している状態です。

また、先週の木曜日、12月3日になりますが、NHKの夜7時のニュースで、子供の貧困、社会的損失4兆円という内容の放送がありました。日本財団が現在15歳の子供を対象にした試算を報道したもので、このまま子供の貧困を放置すれば、経済損失が2兆9,000億円に及び、国の財政負担は1兆1,000億円増え、トータルで社会的損失が4兆円になるというものでございました。子供の貧困問題への対策をきちんと進めなければならないという内容でございます。

親が貧困であるために子供も貧困に陥るのですから、親の貧困を解決するために、雇用の拡大、雇用形態の改善、社会保障の充実などの施策も当然必要ですが、私は、子供たちを直接支援する施策も必要ではないかと考えます。

貧困は親子間で引き継がれる割合が高いと言われております。親の収入が少ないと、十分な教育費を捻出することができず、学習塾に行けなかったり、生計を支えるために子供とかわる時間がとれなかったりして、子供の進学や就職に悪い影響が出てくる。そのため、大人になったときに所得が低かったり、収入が安定しないことにつながる。その影響は、同じように次の世代に引き継がれる。これが貧困の世代間連鎖と呼ばれるものです。

貧困の世代間連鎖を断ち切り、今の子供たちが大人になったときに貧困に陥らないようにする必要があります。子供の貧困対策に関する大綱の基本方針にも、貧困の世代間連鎖の解消と積極的な人材育成が掲げられています。貧困の世代間連鎖を断ち切るためには、貧困による教育の格差をなくさなければならないと思います。具体的には、学習習慣を身につけさせ、基礎学力を向上させるための学習教室を市内各所で開講してはどうでしょうか。

大阪府大東市では、学力向上ゼミという学力向上推進事業を行っています。毎週土曜日の午前中に学習塾の先生を講師にお迎えして、学習習熟度別にクラス分けをして、主に学校の授業の予習をして学力の向上と自学自習力を身につけさせるという取り組みでございます。

小学校4・5・6年生を対象にした小学生ゼミは、教科は算数のみで受講料は月1,000円、中学校1・2・3年生を対象にした中学生ゼミは、教科は英語と数学で受講料は月2,000円

だそうです。受講料は、生活扶助を受けている場合などは免除されることになっていると
いうことでございます。講師には、先ほど御紹介しましたように、学習塾の先生をお迎えし
ておりますが、1回当たり 4,300 円が支払われるということになっておるようでございま
す。

大東市のほかにも、ボランティアを中心とした講師が低所得世帯の子供たちに学習支援を
する学習会、そういったものが全国のあちこちで開かれているようでございます。

天童市でも学習塾講師や教員のOB・OG、大学生などを有償、あるいは無償で講師として
お迎えして、小学生、中学生、高校生を対象にした学習教室を開催する必要があるのではな
いでしょうか。

日本財団の試算からもわかるように、貧困の連鎖を断ち切ることは、将来に向けた投資に
なると思います。天童市発展のために、市として貧困の連鎖を断ち切る取り組みが必要では
ないでしょうか。そのために、子供たちに学習習慣を身につけさせ、基礎学力を向上させる
ための学習教室を開講することについて、教育委員会のお考えをお聞かせいただければと
思います。

次に、2つ目の若者の地元就職やUターンを促すための意識改革についてお伺いします。

人口減少問題を解決するための施策として、若者の地元就職やUターンを促すために、優
良な雇用の場をつくる雇用環境の整備や、優良な宅地を供給する住環境の整備が必要であ
ると言われており、天童市においてもそうした施策が進められているものと理解してござい
ます。

そうした条件整備ももちろん大切ですが、私は、若者が地元就職やUターンを望んで天童
に住んでもらうためには、若者から天童が魅力あるまちであることを理解してもらうことが
必要であると思います。

若者が天童に魅力を感じていなければ、雇用の場があったとしても、住む場所があったと
しても、必ずしも天童に帰ってくるとは言えないのではないのでしょうか。

雇用環境の整備や住環境の整備はどの市町村でもやっています。その施策だけで居住地
として天童を選んでもらえるか疑問があります。似たような条件だったら、他の都道府県、
他の市町村に流れてしまう可能性があります。積極的に天童に住みたいと思ってもらえる
ためには、若者から天童が魅力あるまちであることを理解してもらうことが大切だと思
います。

さて、若者から天童が魅力あるまちであることを理解してもらうといっても、具体的にど
うするかとなると、難しい問題であると思います。意識を変えることはそう簡単にはできな
いでしょう。ですが、地道に進めていかなければならない課題だと考えております。

私なりに、4つほど考えてみました。

1つ目は、天童の誇れることをまとめた冊子を作成して、小学校の授業で活用してはどう
でしょうか。小学校では、私のまち再発見のような授業があるのだと思いますけれども、そ
の授業の最後にこの冊子を配って、「天童はこんなにすばらしいところです。」と先生から話
していただくと、児童は天童に誇りを持つようになるのではないのでしょうか。

2つ目は、中学生や高校生に地域でのボランティア活動の場を提供し、そこで積極的に活
動することにより達成感を味わってもらい、天童のために頑張りたいと考えるようなシステ

ムをつくってはどうか。若者がより積極的に社会参加するようになり、天童に愛着を感じてもらえるようになるのではないのでしょうか。

3つ目は、若者の意見を聞くために、例えば、天童市の発展を考えるワークショップ、そのようなものを定期的に開催してはどうか。まちづくりに若者の意見を取り込むシステムをつくることで、若者がまちづくりに参加しているという意識を持つことができ、また、天童が若者に期待していることをわかってもらうことができると思います。

4つ目は、天童市は若者に期待している、このことを理解してもらうために、天童市独自の奨学金制度をつくってはどうか。小学校、中学校では授業料が無料で、要保護・準要保護世帯の児童・生徒への就学援助があり、また、高校では就学支援金や私立高校の生徒への学費補助があり、ある程度は充実した支援内容になっていると思いますが、大学生への就学支援は日本学生支援機構が行っている奨学金が主なもので、この奨学金は貸与型であります。卒業後に就職できずに返済に困っている学生がいるという話を聞きます。そのため、大学進学を諦める生徒もいるのではないのでしょうか。

前半でお話をした子供の貧困問題とも関係しますが、経済状況が非常に厳しい家庭の生徒のために給付型の奨学金を用意したり、また、大学卒業後に天童に住み、地元企業に就職した者に対しては、奨学金返還に充てるため、一定額の給付をするような制度をつくってはどうか。その際、地元企業からも寄附を募り、基金を創設して運用するなどの方法も考えられると思います。給付型の奨学金であれば、ありがたみをより感じていただき、天童への感謝の気持ちを感じてもらえるのではないのでしょうか。

以上のような取り組みをして、若者から天童が魅力あるまちであることを理解してもらうことにより、多くの若者が天童に住み、地元企業に就職することになり、人口減少問題解決の一助になると思いますが、こうした取り組みについて、教育委員会のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

以上、1回目の質問でございます。

◎水戸部知之教育長 三宅和広議員の御質問にお答え申し上げます。

初めに、児童生徒の基礎学力の向上についての学習教室の開講について申し上げます。

児童・生徒に確かな学力を身につけさせることは、学校教育の最大の使命であり、責任であります。そして、その基盤となるのが授業であります。各学校において基礎基本の定着を図り、学んだことを活用する力をつける課題解決学習を効果的に取り入れながら基礎学力の向上に取り組んでいるところであります。もちろん、基礎学力の向上につきましても、学校の取り組みだけでなく、家庭との連携が大切です。生活習慣の改善、家庭学習の習慣化など、家庭の力をお借りしながら、効果のある確かな指導・支援を行っているところであります。

学習教室の開講についての御提言がありました。来年度から、天童市日新製薬教育振興基金を活用した活力ある学校づくり推進事業の一つとして、学校のみならず、地域の協力により本市の教育を一層推進する地域人材活用による学力向上事業を試行し、実証的検証を行いたいというふうに考えております。今後とも、児童・生徒の実態、学校・地域の現状に応じた多彩で積極的な取り組みを進めてまいります。

次に、若者の地元就職やUターンを促すための意識改革についての天童の魅力を理解してもらうための施策について申し上げます。

地域社会の将来を担う人材を育成するには、子供たちが地域への愛着や誇りを持つことができるように、「ふるさと・天童」を学ぶ授業や地域に根ざした学習活動を積極的に取り入れていく必要があります。市内の小・中学校では、各地区の公民館や地域づくり委員会等の協力を得て、地域の人材を活用したり、地域内での交流を図ったりしながら、各学校の特色を生かした体験活動や地域学習に取り組んでおります。

また、教育委員会としましては、地域学習バス借上げへの支援を全小学校全クラスに実施しており、また、社会科副読本、本市の絵地図や全図の編集、作成を行い、児童・生徒への配布をしております。今後も、本市の歴史・文化・産業・自然等と積極的にかかわりながら、地域のよさを知り、地域への愛着心を育むとともに、自分が生まれ育った郷土に誇りを持つことができるように、地域との連携を一層支援してまいります。

さらに、本市の奨学金制度としましては、高等学校生徒奨学金貸付事業を実施しております。この事業は、高等学校の就学が困難な生徒の保護者に対して、奨学金の貸し付けを行い、経済的負担の軽減と人材の育成を図るもので、今後も引き続き支援してまいりたいと考えております。

なお、若者の地元就職やUターンを促すための施策については、来年度から、地方創生枠として、県及び県内市町村等が連携して基金を設置し、特定の奨学金の貸し付けを受けた大学生等を支援する制度がスタートする予定であります。本市独自の制度ではありませんが、将来の担い手となる人材を確保する観点からも、こうした制度を活用し、本市への若者の就職・定着促進を図ってまいりたいと考えております。

◆三宅和広議員 答弁ありがとうございました。

1つ目の児童・生徒の基礎学力の向上についてでございますけれども、学校で課題解決型の授業がされているということでございます。私もその辺は認識はしておりますが、まだまだ足りないのではないかなと思っておるところでございます。こちらのほう、天童市の課題解決型ということで、天童市でどのようなことが行われているかというようなことが主な内容になっているのかなと思っております。そういったことも大変必要ではございますけれども、天童の魅力を感じてもらうためにということで、天童の自慢できる天童の中身について、例えば将棋の駒、そういうのはもう当たり前なので、そのほかにもいろいろあるかと思うんです。探してみれば、天童木工さんで家具のどうのこうのとか、吉田大八さんとか、いろいろ我々大人でも知らないような情報っていろいろあるのかなと思いますので、そういったものをまとめたものを、冊子をつくってどうかなという御提案をさせていただいたところでございます。先ほどのお話の中で、本市の絵地図をつくって配布をしているということございましたけれども、例えばその絵地図の中に項目として、天童市ではこんなすばらしいことがあるんだよというようなことの内容を入れたものをつくって、そういったものも活用されると、天童ってすばらしいところなんだなということが子供たちにもわかってもらえるのかなと思ったところでございます。

それから、家庭との連携を図って学習習慣を身につけさせるということでございましたけれども、私、当然それは必要だと思っております。ですが、そういったことができない家庭があるのかなと、そういったことがあるから貧困の連鎖が起こってくるということでございますので、貧しい家庭、経済的に苦しく、例えば子供と学習の中身について相談をするような時間的余裕もない家庭があるかと思っております。そういった家庭を補助する、援助するような、そういった取り組みも必要なのかなと思っております。そういったことは個人に任せても、それはちょっとなかなか現状で難しいところがありますので、家庭でやってくださいと言われても、それは難しいところが出てくるのかなと思っておりますので、そういった部分について、市として何らかの取り組みが必要ではないのかなと。そういった意味で、御紹介いたしました大東市での例とか、それから、ほかの市町村でもボランティアを募って学習塾を開いたりというのがございますので、そういったことで基礎学力を身につけていただけるような場が必要なのかな。そういったことをすれば、貧困の連鎖というものが断ち切れるのかなと思っております。その辺のところを、教育長さんのお考えをお聞かせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

◎水戸部知之教育長 ただいまたくさんのお話してくださったんですが、まず、天童市のいろんな産業とか、自然とか、そういった特色を、子供たちには私たちの天童市という副読本を使って、それをもとにして3年生・4年生の学習を始めているということで、私たち、子供たちが、まず自分たちの地域を知って、地域を愛していけるんだというふうな機会を大切にしたいし、今どこの学校においても、地域に根差した学校づくりということを主眼にして学校経営を進めているところでありますので、地域の皆さんのお力というのは非常に大きいし、またその中で地域のお力をお借りしながら、子供たちが豊かに成長していくことによって、子供たちが地域の中で生きているということ、また、地域の中で生きていくというふうな決意が生まれるのかなというふうに思います。

いずれにしても、私たち大人自身が自分の地元を卑下するような風潮があるということが、まず払拭しなければならない大きな課題なのかなというふうに思っていますから、そういったことも踏まえて、子供たちには積極的に地域とかかわりを持って育ててほしいなというふうに考えております。

また、先ほど探究型というふうなお話をしましたけれども、探究型というか、追求する形でございますが、私たちはこれまで、どちらかという知識理解というものを授けるというふうな形で授業を組んできましたけれども、やはりそういうことではなくて、そういった知識理解をどのように生きる生活の中に生かしていくか、いろんな問題にどう対処して、その知識、学んだことを生かしていくかということが、非常に大切な力となって求められているところであります。

なかなかそこを転換するというのは、非常に易しい、たやすい問題ではございませんので、力強く繰り返し繰り返しその必要性を訴えながら、子供たちに生きる力を育てていきたいというふうに考えているところであります。

また、学習塾については、先ほどありましたように、塾の先生も生かしていくなんていうことも十分考えられますし、また、地域のOBの先生方もいらっしゃいますし、そういったものを使いながら、ぜひ活用してまいりたいというふうに思います。

肝心なことは、やはり学習する時間というのが非常に大切なことなのかなというふうに思います。貧困であるということは、必ずしも子供たちの学力を全て押し下げているわけではございません。その鍵になるのは学習時間、学習習慣のことが大変大切になってきますので、ぜひ子供たちにもそういう、先ほど言った地域人材活用による学力向上事業だけでなく、さまざまな面で子供たちに学習習慣を、あるいは学習の意欲を育てていきたいというふうに考えているところであります。

以上であります。

◆三宅和広議員 学習塾のほうでございますけれども、日新製薬さんとのということで、地域人材を活用した事業がこれから進むということで、大変期待をしております。その中に、貧困の云々というところも頭に入れていただいて、検討していただければなと思っております。

先ほど学習習慣を身につけるといふようなことがありました。大変大切なことだと思っております。京都府だったと思いますが、京都府のほうで貧困を防止するための基本条例のようなものをつくっております。その中で調査をした結果がありまして、確かに貧困であるから学習習慣が身につかないという、学力が低いという状況ではなく、一般的に、貧困であると低いというんですけれども、貧困であっても学習習慣を身につけた子供は学力が高い、進学先もいいというような状況もございますので、やはり学習習慣を身につけさせることが必要なかなと思っております。そういった学習習慣を身につける一つのアイテムとして、そういった学習塾のようなものを、お金がなくても使えるようなシステムがあればいいのかなと思ったところでございますので、ぜひそちらのほうで御検討いただければよろしいのかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、2つ目の若者の地元就職、Uターンを促すための意識改革についてということで、先ほど私、先走ってしまいまして、絵本のお話をさせていただきました。絵本の中にそういった地域の誇れるようなもの、内容を入れたいというようなことを申し上げましたが、ぜひそういったことを進めていただければいいのかなと思っております。

それで、小学生についてはそういった取り組みをされているということをお伺いしましたが、中学生、高校生に対して、ボランティア活動の場を設けるようなことも必要ではないかなという話をさせていただきましたが、その辺のところについてはいかがなものでしょうか。ちょっとお話をお聞かせいただければと思います。

◎水戸部知之教育長 中学生の地域ボランティアということでは、はっきりしているのが、地区のレクリエーション大会などで各中学校、地元の中学校に戻って、自分の力を地区のために発揮するというふうな活動を各学校で奨励しておりますし、実際行っているところであります。

そのほかにも、地区の活動にはできるだけ参加できるような体制づくりをやはり進めていかなければならないのかなというふうに思っています。

なかなか中学生にとってみますと、部活があったりということで、なかなか時間の許すものが多くないと思いますけれども、機会を見つけながら、やはり地区の年中行事に参加するとか、あるいはボランティア活動に参加するとかというふうな形で、やはり地元の中で子供たちが生きて、世話になって、そしてその中で自分の力を発揮していくというふうな機会はぜひ積極的に進めていきたいというふうに考えております。

◆三宅和広議員 ぜひ積極的にボランティア活動の場を設けていただいて、教育委員会さんが中心になって設けるのかどうかわかりませんが、設けていただければいいのかなと思っております。

ただ、一つだけ気になったのが、今のお話は中学生ボランティアということでございますけれども、高校生のボランティアというのも大変重要なのかなと思っております。確かに地区のレクリエーション大会等で中学生のボランティア、活動していただいておりますけれども、その後高校生にいったらば、なかなかボランティア活動ができない、やっていない状況にあるのかなと思っております。

山形県のほうでは山形方式ということで、学校単位のボランティア組織でなく、地域ごとのボランティア組織、山形方式というボランティアのシステムがありますけれども、このごろなかなかそれは低迷しているのではないかなと思っております。高校生のボランティアにちょっとお願いしたいということで、山形県の青年の家にお話をお伺いしたところ、なかなかこのごろ低迷しているんだよというお話がありました。ぜひ、天童市としてそういった活動を積極的に推進するような取り組みをしていただければよろしいのかなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

その辺のところを教育長さんにお話をお伺いできればと思います。

◎水戸部知之教育長 中学生以上に、高校生というのはなかなか難しいところがございませうけれども、干布にはHVCという高校生ボランティアサークルもございませうし、そういう意味で、やはり子供たちが、生徒たちが無理のない中で地域の中で貢献できていくということも非常に大切なことでもありますので、いろんな機会を利用しながら、ぜひお力をお借りするような場をつくっていききたいなというふうに思っているところであります。

◆三宅和広議員 ぜひ、中学生から高校生に至るまで、ひいてはその後大人になってからもというところになるかと思うんですが、ボランティア意識、ボランティアの活動を積極的にしていただければよろしいのかなと思っております。よろしくお願ひいたします。

それから、3つ目として、例えばということで、天童市の発展を考えるワークショップ、これは若者を中心にとということで書かせていただいたところでございませうけれども、こういったものを開催してはいかがかなと思ったところでございませう。やはり自分が天童市のために、その発展のために参画しているんだという意識を持ってもらうということは大変い

いことだと思っておりますので、そういった取り組みがぜひ天童市にもあっていいのかなと思ったところでございます。

このごろ新聞を見ておりますと、こういった若者を集めたワークショップなり、何かいろいろあるように聞いておりますので、天童市としてもぜひそういった取り組みをお願いしたいなと思っております。

天童市の現在の状況とか、今後の取り組み状況について、お話をお伺いできればと思います。よろしく申し上げます。

◎水戸部知之教育長 今、青年の家を中心にして小・中学生、高校生、あるいは短大生も一緒になったワークショップということが12月にも計画されておりますし、その中でも、中学生同士のいじめに対する問題についてみんなで意見を交換し合うというふうな会も予定されておりますので、そういった活動を中心にしなが、やはり少しずつ育てていくというのが大事なことかなというふうに思っております。なかなか無理をしても難しいところもありますので、そういう雰囲気、あるいは環境を少しずつ醸成していきたいなというふうに思っているところであります。

◆三宅和広議員 青年の家で行っているということでございますが、年に1回くらいだと思うんですが、無理をせずにと、確かにおっしゃるとおりだと思います。ですけれども、年に1回ではちょっと回数が少ないのかなと思いますので、もっと回数を増やしてもいいのかなというような気がしました。

話し合う中身も、天童市について考えるような、そういったテーマについて考えてもらうようなワークショップがあれば、天童市発展のために、天童市のために頑張ろうという、子供たちも意識を持ってもらえるようなことになるかと思っておりますので、ぜひそういった中身も取り入れたものでワークショップ等をしていただければよろしいのかなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それから、4つ目に、天童市独自の奨学金制度を導入してはどうかなというお話をさせていただきました。お答えの中で、県のほうで基金をつくってということに進むというふうなお話がありました。確かに総務省のほうから、たしか地方自治体から出資した場合は、その半額が何か補助金が出て、民間企業とも連携をしながら基金をつくってというふうな取り組みを国としても進めているというふうに聞いております。

県が進むのであれば、天童市として独自につくる必要はないのかなと思っておりますが、その基金がいつできるのかわかりません。すぐにできないのかなという気がしますので、天童市としても、そういった施策について検討しておく必要があるのかなと思ったところでございます。

その辺のところを、県の進捗状況とかも踏まえまして、お話ししたいかと思っております。よろしく申し上げます。

◎中島伸一教育次長 ただいまの県のほうで考えております支援制度の仕組みでございますけれども、こちらにつきましては、現在来年度からの予定で現在県のほうで準備を進めて

いるというふうにお聞きしております。中身につきましては、大学生が県内回帰、そして定着を促進するというふうな内容でございまして、日本学生支援機構から貸与された奨学資金につきましては、大学卒業後6カ月以内に県内に在住、もしくは就職をして3年以上継続見込みがある場合に、奨学資金の返済免除、または減額をするというふうな制度でございます。一応来年度からというふうなことで、現在県のほうで進めている事業でございます。

以上でございます。

◆三宅和広議員 来年度からということでございますので、天童市として取り組む必要はないのかなと思っておるところでございますけれども、県で実施するというところでございますので、そのPR等について天童市としても積極的に利用されるような取り組みを進めていただければなと思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。

以上で私のほうの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。